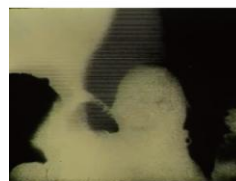
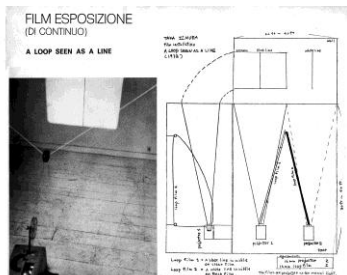


飯村隆彦 写真資料のアーカイブ作業とフィルム・メディアアート作品のデジタル化・修復事業

団体名 特定非営利活動法人ビデオアートセンター東京

概要／課題 実験映画、ビデオアート、メディア芸術分野の草分け的存在である飯村隆彦（1937年-2022年）が残した芸術活動に関する写真資料や紙媒体のデジタル化及びアーカイブ作業を行います。当該事業はこれまで、飯村のビデオテープ作品（各種テープ媒体収録）のデジタル化とフィルム作品の所在と状態確認の作業を行ってきました。今年度は、次に緊急性が求められる16mmフィルム作品のデジタル化を開始するとともに、作者が制作段階や作品発表時に作成したスケッチ・図面、記録写真・広報媒体・書簡などの紙媒体をアーカイブ化し、国内のメディア芸術黎明期といえる1960年代～1980年代の貴重な資料を後世に伝える一助を担いたいと考えます。

体制／手法 飯村隆彦のスタジオに保管されていた活動年ごとのファイルから写真、チラシ、ポスター、直筆のスコア、スケッチ、作品発表時の契約や書簡を一枚ずつ光学スキャナーで読み取り、リストを作成した上で、将来的な再現展の指示書や作品分析に役立つ一時文献としてリスト化しました。16mmフィルム作品は光学スキャンを行い、4K相当の画質のデジタル動画にダビングしました。経年によるダメージについては修復を施しました。それらの一部をオンラインと冊子などを通じてアーカイブの一般的に閲覧可能な状態としました。



作者によるテレシネ映像

ベータカムテープ (640×480 pixel)



デジタル化版の映像
4K(4000×3000 pixel)

発見された資料の例1968年の新聞記事（左） 作品の設置図（右）

成果（公開・成果物について）今回約1万点の写真・紙媒体をデジタル化し、それらから1960年代～80年代の飯村の活動や展覧会の様子がわかる資料的価値の高い資料が発見しました。これらの資料のリストをオンラインにて一般公開し、今後の展覧会や研究に役立てたいと考えます。

（見込まれる社会的利用について）本事業を通じて飯村のメディア芸術作品を公開することができた事例に「Community of Images: Japanese Moving Image Artists in the US, 1960s-1970s」展に飯村隆彦関連作品数本（アメリカ合衆国・フィラデルフィア、フィラデルフィア日米協会、コラボラティブ・カタログ・ジャパン主催、令和6年6月14日～8月9日）、鈴木治行「映像と音楽」室内楽個展に飯村作品《Filmstrips II》の上映（杉並公会堂小ホール、主催CIRCUIT、令和6年10月22日）がありました。引き続き飯村隆彦アーカイブサイトなどオンラインでの公開に努めていき、戦後美術やメディア芸術の理解と分析に役立てたいと考えます。

<https://vctokyo.wixsite.com/info/2024iimura-archive>

（事業の最終ゴール）飯村の作品を収蔵している海外の映画祭・美術館、海外アーティストとの共同制作作品などの調査を進めるべく各海外文化機関や管理団体と連携し、それぞれのアーカイブの間を補完し合う必要性があります。またそのような横断的なメディア芸術分野の研究者、キュレーターの育成、さらには観客へのアクセスなど文化遺産としてのメディア芸術の経済効果を見据えた将来的に持続可能なアーカイブと文化系譜の体制を整えていきたいと考えます。